

1. 基本的な事項

- 空港の特徴
 - ・ 1998年に佐賀市及びその周辺の航空需要に対応する地方空港として開港
 - ・ 佐賀空港の更なる国際化・機能強化に向けて整備を進めている。
- 空港脱炭素化に向けた方針
 - ・ 空港関係者が一体となって脱炭素化に向けた取組を推進。
 - ・ 水素の利活用等の先進的な取組みや様々な実証実験に挑戦し、社会に大きく貢献できるイノベーション空港を目指す。

2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量[t/年]	
	2013年	現状（2019年）
空港施設	2,028	1,514
空港車両	119	126
計	2,147	1,640

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比46.2%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

4. 主な取組

- ・ 2030年度：空港施設の省エネルギー化、太陽光発電設備・蓄電池導入、航空灯火のLED化、空港車両の電動化等に取り組む。
- ・ 2050年度：太陽光発電等の更なる省エネ発電の整備、合成燃料の活用、水素等の活用に向けた検討を進める。



その他の取組

- 〈地域連携・レジリエンス強化〉
 - ・ 停電や災害等の発生における周辺住民や地域等への電力供給の整備方針について検討を進める。
 - ・ 佐賀空港における地中熱の可能性について他組織と連携して導入規模及び方式等について検討を進める。
- 〈空港アクセスに係る排出削減〉
 - ・ 旅客や空港従業者が、より温室効果ガスの排出を軽減した交通手段への転換を促す施策、及び電動自動車を利用しやすい環境整備について検討を進める。